

令和8年2月実施

奈良県明日香村 行政視察報告書

佐渡市議会 副議長 室岡啓史

▼【概要】行政視察の名簿・日程

◆行政視察名簿

職名	氏名	備考
議長	金田 淳一	
副議長	室岡 啓史	文責
産業建設常任副委員長	広瀬 大海	
総務文教常任副委員長	平田 和太龍	

◆行政視察日程

2月4日（水）午前：

【座学】世界遺産登録を見据えた活力ある村づくりについて @明日香村役場

【実地】石舞台古墳（蘇我馬子氏の桃源墓か）：そがのいなめ うまこ えみし いるか 蘇我稲目⇒馬子⇒蝦夷⇒入鹿（蘇我氏4代系譜）

↓
四神の館（玄武・白虎・青龍・朱雀）
↓
キトラ古墳壁画（白虎・青龍・戌・申）
↓
飛鳥寺（日本最古の大仏を称える寺院）
↓
埋蔵文化財展示室・あすか夢の楽市

↓
水落遺跡（水時計による役人の勤怠管理）
↓
高松塚古墳・壁画館（女子群像の壁画）
↓
飛鳥びとの館（総合案内所や土産販売）
↓
飛鳥駅（駅前に案内所や直売所あり）

▼【概況】奈良県明日香村について

◆奈良県明日香村について

【出典】ウィキペディア

【概要】人口：4,682人 面積：24平方キロメートル

奈良県高市郡の奈良盆地南端に位置。ピーク時の1990年には7,363人であったが、現在は減少傾向にある。日本で唯一、村全域が「古都保存法」の対象地域であり、歴史的風土を保護するため開発や建築への厳しい規制（明日香村特別措置法）が敷かれている。

【歴史・名称の由来】

時代区分である「飛鳥時代」の名称の由来となった自治体である。明治時代には「飛鳥村」として誕生したが、昭和31年（1956年）に近隣の阪合村・高市村・飛鳥村で合併した際、現在の「明日香村」に改称された。

【主な名所・旧跡（観光資源）】

村全体が「屋根のない博物館」とも称されるほど、貴重な遺跡が密集している。

◎古墳：石舞台古墳（特別史跡）、高松塚古墳（彩色壁画）、キトラ古墳など。

◎寺院・神社：飛鳥寺（日本最古の大仏）、岡寺、橘寺（聖徳太子誕生地）など。

◎石造物：亀石、酒船石、猿石、鬼の雪隠など、用途不明の謎めいた遺構が多い。

◎万葉文化：奈良県立万葉文化館があり、万葉集の舞台としても知られる。

【地理・交通】

周囲を丘や山に囲まれた小さな盆地であり飛鳥川が流れる。近畿日本鉄道吉野線の「飛鳥駅」があり、これは大手私鉄で唯一「村」に所在する駅である。

【特徴的な取り組み】

「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」として世界遺産暫定リストに登録されており、全域での本登録を目指している（構成資産は19件）。「奥飛鳥」は重要文化的景観に選定され、棚田などの美しい農村風景と古代遺跡が調和している。

あすかむら
明日香村



石舞台古墳

橘寺

酒船石遺跡

高松塚古墳

奈良県立万葉文化館



明日香村旗



明日香村章
1969年4月制定

▼【画像①】 明日香村の座学研修と議場の視察



▲石田雅則議長による歓迎のご挨拶。
飛鳥・藤原の世界遺産登録を目指す



▲金田議長によるご挨拶では昨年
に佐渡視察へご来島いただいた御礼



▲木治課長より世界文化遺産登録を
見据えた活力ある村づくりのご説明



▲議員は9名。議場は研修室としての
機能も保持し柔軟な利活用が進む



▲石田議長と明日香村役場玄関にて
牽牛子塚古墳を模した玄関上の吹抜



▲明日香村の魅力あふれる研修資料。
推古天皇ら女性活躍社会のさきがけ

▼【画像②】 明日香村の座学研修資料

■ 明日香法と共に歩む村 (1980年制定・施行) 明日香村

□ 土地利用の規制により、開発が抑制され、地形や景観が保たれ、結果として、**地中の文化財が保存**されている。



凡例
 ■ 第1種歴史的風土保存地区
 ■ 第2種歴史的風土保存地区

□ 意匠形態の規制により、**良好な集落景観が形成**され、古民家を活用した店舗立地などによる**地域振興に繋がっている。**



古民家を活用した宿泊施設



良好な集落景観の写真

▲ 1980年施行の明日香特別措置法。毎年1.6億円が国から交付される

■ 地域づくりの方針「あすかまるごと博物館」 明日香村

村全体を、「飛鳥京歴史ゾーン」「古墳ゾーン」「自然ゾーン」のエリアがある、屋根の無い「明日香まるごと博物館」として、地域づくりを実施。「見る・泊まる・食べる・買う・感じる」をキーワードに、観光を軸として、農業や林業、商業などを活性化させる観光振興策を展開。



飛鳥京歴史ゾーン
 古墳ゾーン
 自然ゾーン



国史跡 飛鳥宮跡



国宝 高松塚古墳壁画



重要な文化的景観 稲刈り田

▲ 飛鳥京歴史・古墳・自然ゾーニングによる「あすかまるごと博物館」

■ 世界遺産登録を見据えた活力ある村づくり

明日香村の資産を最大限に活かし、「明日香まるごと博物館」づくりにより、体験・滞在・交流を通して、観光振興により明日香村を元気にすることを旨とする。

(世界遺産登録を見据え) 飛鳥の宮都を構成する資産を活用し、関係人口の増加による観光を軸とした持続可能な地域づくりを推進

○ 飛鳥の宮都を体感できるまちづくり
 飛鳥京歴史ゾーンの核となる史跡整備を促進し、世界遺産登録時の中核ガイダンス施設とされる県立万葉文化館周辺の観光等機能向上と、そこから石舞台古墳や水落遺跡に至る道路沿いに「にぎわい」の創出。



▲ 体験・滞在・交流による観光振興で飛鳥の宮都を体感できるまちづくり

■ 文化資源の見える化

○ 牽牛子塚古墳の整備
 ・ 外観は、築造当時の姿に再現。
 ・ 再現した外観は、墳丘を保護するためのシェルターの役割を果たしている。



整備完成後の牽牛子塚古墳

○ 石室内での映像解説
 ・ 越塚御門古墳の破壊された石櫓を、プロジェクションマッピングにより再現。
 ・ 壁面に、激動の飛鳥時代を駆け抜けた被葬者の齊明天皇や間人皇女、そして大田皇女が登場する映像を映写。



7. 越塚御門古墳 石櫓の再現

○ バーチャル飛鳥京
 ・ 地中に埋もれた文化財をデジタル技術で復元し、アプリにより配信。(川原寺・水落遺跡・飛鳥寺など)



▲ バーチャル飛鳥京や映像展示による文化資源のデジタル化／見える化

■ 宿泊施設の誘致

○ ブランシエラヴィラ明日香(飛鳥地区)：長谷工コーポレーション
 空き家となっていた築150年の古民家を「登録有形文化財」に登録し、1室90㎡のゆとり有る空間を有したホテル。
 開業：2022(令和4年)3月
 客室数：2室(定員14名)




○ 星野リゾート
 (真弓地区予定地) (祝戸地区予定地)




▲ 築150年古民家を登録有形文化財として活用したホテルなどが増加中

■ 旅行商品造成・プロガイド養成

○ 旅行商品の造成
 「現地に住むローカルフレンドと友だちになって一緒に旅が出来るツアー」や「飛鳥時代の歴史を体感するサイクリングツアー」「明日香ナイトミステリーツアー」など、ガイド付きの旅行商品を造成。観光情報ポータルサイトなどで販売。

○ 飛鳥地域(日本語)プロガイドの創設
 「価値(歴史・文化・景観・自然など)の適切な説明」「来訪者の求め(様々な関心、異なる知識)に応じた説明」「来訪者の安全・安心の確保」「経済循環への貢献」が出来る高い満足度を提供できるガイド。観光従事者として活躍できる地域を10名認定。

○ 「飛鳥認定通訳ガイド」
 明日香村、橿原市、高取町限定の資格を有した地域通訳ガイド。34名認定。認定通訳ガイドを中心に、飛鳥観光通訳ガイド協会(ATIGA)を設立。

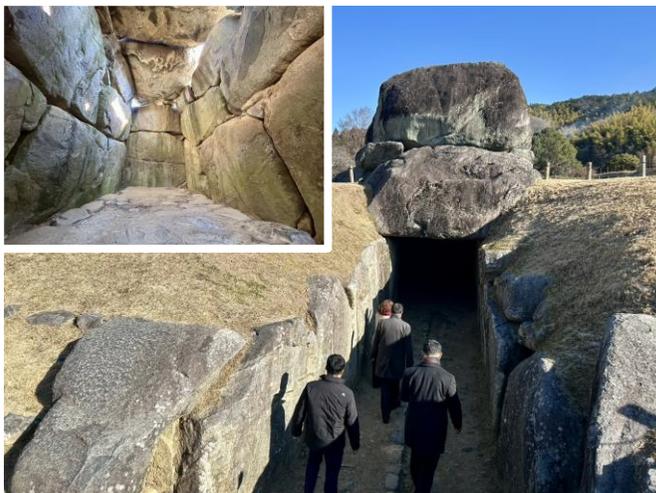
○ 明日香村オリジナル御朱印「飛鳥乃余韻」販売
 点在する史跡を巡っていただくこと、史跡周遊から収益を得るため、明日香村オリジナル御朱印「飛鳥乃余韻」の販売。売上の一部を、明日香村文化財保存基金に積み立て、文化財の保存・活用のために使用。






▲ 旅行商品の造成とプロガイド養成により宿泊・滞在型観光を推進

▼【画像③】明日香村の実地研修①



▲蘇我馬子氏の墓とされる石舞台古墳
稲目⇒馬子⇒蝦夷⇒入鹿の4代系譜



▲明日香村内に点在する棚田地域。
世相を映すミャクミャク案山子



▲キトラ古墳の四神壁画の館では
玄武・白虎・青龍・朱雀等を展示



▲日本最古の大仏を称える寺院である
飛鳥寺では住職のご講話を拝聴



▲飛鳥大仏（銅造釈迦如来座像）は
見る角度で表情が変わるように設計



▲蘇我入鹿氏首塚と飛鳥寺伽藍復元図。
AR（拡張現実）によるデジタル化

▼【画像④】 明日香村の現地研修②



▲埋蔵文化財展示室は期日前投票所。
地場産野菜等を扱うあすか夢の楽市



▲水落遺跡は、飛鳥時代の水時計による役人の勤怠管理を行う拠点



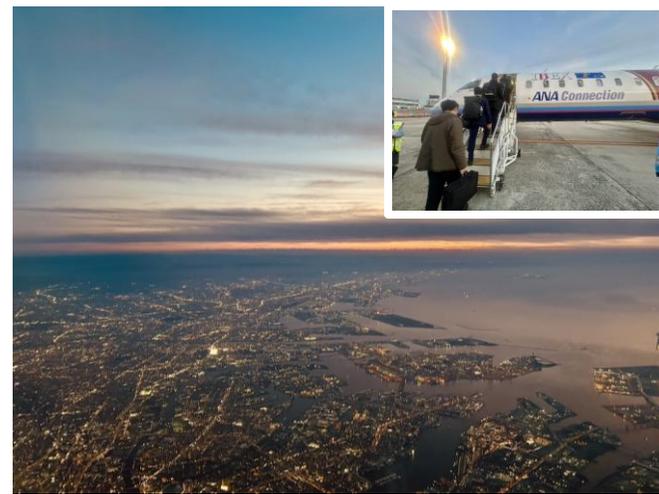
▲飛鳥の歴史を今に伝え、鮮やかな
壁画で知られる高松塚古墳の全景



▲高松塚古墳壁画館に展示されている
極彩色豊かな西壁女子群像の壁画



▲玄武・白虎・青龍・星宿・男女壁画
当時の色鮮やかな服装と女子群像



▲IBEXエアラインズの伊丹⇒新潟。
大阪湾の夜景が美しく輝いていた

▼【画像⑤】明日香村の自己研修（朝の散歩）



▲聖徳太子が既に生まれたとされる伝承が残る橘寺の入口・本堂・池



▲鳥獣被害から田畑を守るために嚴重に巡らされた電気柵の様子



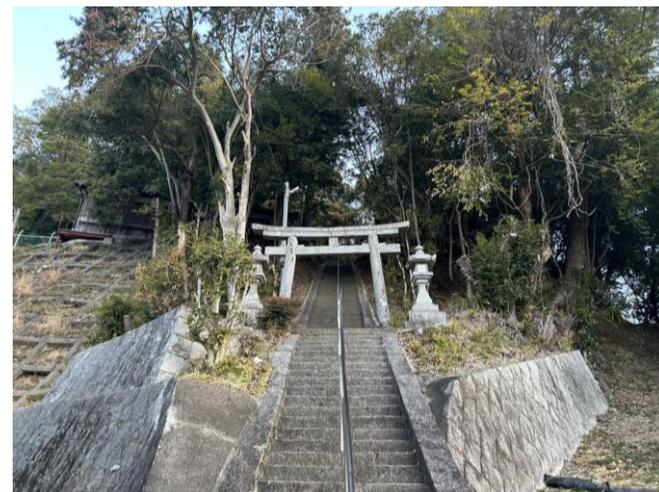
▲電線地中化が整備され、往時の面影を残す川原寺跡のゆとりある環境



▲飛鳥川の川沿いに鎮座する弥勒石は古くから信仰を集めてきた石仏



▲弥勒石至近の万葉のふる里の標語「飛ぶ鳥の川を濁さず 風薫る」



▲歴史深い板蓋（いたぶぎ）神社は古民家イタリアンが至近に位置する

◆世界遺産登録を見据えた活力ある村づくりについて

【内容】

明日香村は、6世紀末から約100年間にわたり日本の首都として政治・文化の中枢を担った「日本国のはじまりの地」である。面積約24平方キロメートル、人口約5,000人の規模ながら、村全域が「古都保存法」および特例法である「明日香法」による厳格な景観・文化財保存の対象となっており、歴史的風土と住民生活の共生を図る先進的なモデルケースとなっている。

主な調査項目および結果の詳細は以下の通りである。

1. 特例法による財政支援と保存体制

明日香村の予算規模や職員数は、本市と比較して約10分の1に留まる。しかし、昭和55年に制定された「明日香法」に基づき、国庫補助率が他自治体よりも高く設定されている点が最大の特徴である。国から毎年約1.6億円の交付金を直接受け、川原寺や橘寺周辺の早期無電柱化や、地下に眠る膨大な文化財の保存、戦略的な発掘調査が計画的に実施されている。厳しい開発規制を敷く一方で、国からの手厚い財政支援を担保することで、保存と村の発展の両立を制度化している。

2. 「明日香まるごと博物館」構想による文化資源の活用

村全体を「屋根のない博物館」と定義し、村の歴史遺構を体験・滞在・交流の拠点として観光振興に繋げている。また、単なる遺跡の展示に留まらず、石室内での映像解説やバーチャル技術を駆使した「飛鳥京」の再現など、目に見えない歴史を可視化する「見える化」に注力。四神の館や高松塚壁画館などの拠点をネットワーク化し、来訪者が村内を回遊する仕組みを構築している。

3. 民間連携による宿泊施設誘致と地域産業の活性化

保存活動を経済的利益に繋げるため、民間活力を積極的に導入している。特に、築150年の古民家を登録有形文化財として登録し、大手ゼネコン（長谷工コーポレーション）との連携により高品質な宿泊施設へとリノベーションした事例は、歴史的資源を収益化する好例である。また、農業分野ではブランドイチゴ「あすカルビー」を核とし、地域の飲食店と連携したスイーツキャンペーンを展開。観光客が歴史を学び、地域の食を楽しむことで、地域経済が循環する体制を整えている。

4. 質の高い「人財」を支えるガイド養成

文化資源を正しく伝えるため、「飛鳥認定通訳ガイド」の養成に取り組んでいる。現在は10名のプロガイドが認定されており、その教育課程は単なる歴史知識の習得に留まらない。観光客をもてなす「ホスピタリティ」や「ガイドとしての心得」を重視した教育プログラムとなっており、来訪者の満足度を高め、リピーターを創出する原動力となっている。

【所感】

日本国発祥の地としての誇りを抱く明日香村が放つ、歴史の重みに裏打ちされた厳かな空気感、そして官民が強固に連携してその至宝とも言える景観を死守しようとする断固たる姿勢には、言葉に尽くしがたい深い感銘を受けた。本視察を通じて私が改めて確信に至ったのは、文化財保護や景観維持のための「制限（規制）」という概念の捉え直しである。これらは決して地域の経済発展を阻害する足かせではなく、むしろ他地域には真似できない唯一無二の「経営資源（付加価値）」へと昇華・転換させることが十分に可能だという点である。

現在、世界遺産『佐渡島の金山』を抱え、歴史的転換点にある本市において、明日香村が提唱する「明日香まるごと博物館」という概念は極めて示唆に富んでいる。住民の日常生活の場そのものを生きたコンテンツとして定義し、集落全体を展示空間と見なす手法は、「相川まちづくりミュージアム構想」の施策とも高い親和性を持つものである。今後は、この成功の芽を単なる一点のスポットに留めるのではなく、佐渡全域へと面的な広がりを持って横展開し、島全体を一つの壮大な物語として編み直すための包括的な戦略構築が必要不可欠である。

さらに、特例法である「明日香法」に裏打ちされた国からの安定的かつ強力な財政支援のあり方は、有人国境離島法の時限的な支援を受けている本市にとって、延長・支援拡充を見据えた「持続可能な財政・経営モデル」を模索する上で、極めて重要なマイルストーンとなる。単なる補助金頼みの振興策から脱却し、法的根拠に基づいた恒久的な支援体制の構築を国に働きかける必要性を強く感じた。

歴史ロマンというアナログで情緒的な魅力に、最先端のデジタル技術による可視化や民間資本のダイナミズム、そして何より地域住民が主体となる「互助・共創」の精神を多層的に融合させること。これによって、社会課題の解決と経済的自立を両立させる独自の「佐渡型ソーシャルビジネス」を確立することこそが、本市における「離島創生」の核心であり、我々議会が先導すべき道筋であると再認識した次第である。

今夏、「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録をご祈念申し上げて2つのなぞかけを寄贈したい。

整いました～◎

明日香村と掛けまして、
お正月のテーマソング春の海と解きます。

その心は・・・

素晴らしい古都／琴でしょう！

もう一つ、整いました～◎

飛鳥・藤原の世界遺産登録と掛けまして、
一両日中と解きます。

その心は・・・

京か明日香／今日か明日かに実現するでしょう！

▼【提案】世界遺産を核とする「佐渡まるごと博物館」

◆企画提案：世界遺産を核とする「佐渡まるごと博物館」構想の推進

1. 「佐渡版・歴史的風土保存」の財政モデル検討

明日香村が「明日香法」により毎年約1.6億円の交付金を受けている事例を参考に、世界遺産周辺の景観保存と住民生活の利便性向上を両立させる、国への新たな財政支援（離島振興法、有人国境離島法等の更なる活用や新法の検討）を働きかける。

2. 「佐渡認定プロガイド」制度の創設

明日香村の「飛鳥認定通訳ガイド」にならい、歴史知識だけでなくホスピタリティやマーケティング視点を備えた「稼げるプロガイド」を育成・認定する。

◎ポイント：単なるボランティアではなく、プロとして高い対価を得られる仕組みづくりを支援する。

レクチャーではなく、エンターテインメントかつ五感を育み、生きる力を伸ばす意識を大切にする。

◎認定基準の策定：知識試験のみならず、ストーリーテリング、接遇、有償ガイドとしてのマーケティング能力を評価項目に加える。

◎収益モデルの構築：数万円単位のプレミアムガイドツアーを造成し、ガイドが自立した個人事業主として成立する仕組みを支援する。

◎多言語対応とデジタル活用：インバウンド需要を見据え、英語等の語学研修に加え、タブレット端末を用いた視覚的な解説手法の習得を義務付ける。

3. 古民家・歴史的建造物の「攻めの保存」

長谷エコーポレーションによる古民家ホテルの事例のように、登録有形文化財への登録と民間資本（ゼネコンや大手資本）を連携させ、滞在型観光の拠点を各地区に整備する。「相川まちづくりミュージアム構想」を全島へ。

4. 「デジタル×歴史」による資源の見える化

バーチャル飛鳥京の取り組みを参考に、佐渡金山のみならず、五重塔や寺社仏閣城郭跡、配流の歴史等をAR（拡張現実）の活用で再現し、遺構がない場所でも歴史ロマンを体感できる「デジタル歴史ツアー」を構築する。

5. 農業と観光の「美味しい」連携

「あすカルビー（イチゴ）」と飲食店が一体となったキャンペーンを参考に、佐渡の特産品（米、魚、野菜、果物、郷土食等）と世界遺産観光をセットにした「食のストーリー」を強化し、滞在型観光を推進する。以上